

## 令和4年6月定例記者会見要旨

開催日時 令和4年6月24日（金）午前10時30分 302会議室

（7月の日程説明等）

- 第55回藤原咲平先生をしのぶ会  
7月12日（火） 午前11時00分 藤原咲平博士記念碑前（霧ヶ峰）
- 第2回官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議  
7月14日（木） 午後2時00分 大会議室
- ライフドアすわ 開所5周年記念講演会  
7月16日（土） 午後1時30分 諏訪市総合福祉センター
- 壱岐市御柱祭  
7月17日（日） 終日 壱岐市
- ともに生きる諏訪市民大会 映画上映会  
7月24日（日） 午後1時30分 諏訪市文化センター

（市長）置き配バック活用実証実験市民モニターの募集をいたします。これはCO<sub>2</sub>削減、環境に配慮した取り組みの一つで、荷物の再配達による車のCO<sub>2</sub>を削減することを目指した取り組みです。玄関先にバッグを用意しまして、そこに荷物を入れていただくことによって再配達を少なくするというものです。諏訪市のゼロカーボンに向けた取り組みの一つとして実験をし、実証期間が8月13日から12月30日です。これにモニターとして参加いただける方は、7月1日から500名を先着順で募集いたしますので、ぜひご応募いただきたいと思っております。この結果につきましては、諏訪市のロビー展や諏訪市の公式ホームページ等でその状況をお知らせします。実証実験による効果を知っていただくとともに、今後の取り組みの材料にしていきたいと思っております。

次に、クラウドファンディングについてですが、西山公園の桜の再整備プロジェクトも順調にご協力をいただいているところです。他にも小丸山古墳出土品の保存処理プロジェクトがあり、これをふるさとチョイスの対象にしたり、クラウドファンディング目標金額100万円を設定しまして、6月1日から募集を開始しております。この小丸山古墳というのは1,400年くらい前の古墳でありまして、ここから太刀が発見されたり、馬具等やその附属品が出土しておりますが、これを後世の研究に資するように、保存処理しなければいけないということで、令和3年度は三本の太刀の保存処理が完了しました。7月2日から博物館のすわ大昔ミニギャラリーで展示をしておりますが、それに加えて、発掘された別の刀の鑢つばに象嵌ぞうがんの細工がされているということがはっきりしています。1,400年前の遺跡の中に象嵌処理された鑢が出ていたということは、相当な高貴な方が埋葬されているのではないかとということが分かります。この山の中の古墳に、そうした方の痕跡があるということは、諏訪の国のルーツがより明らかに発見できるのではないかと大きな期待を持っております。ぜひ多くの皆さんにこのクラウドファンディングにご協力をいただきまして、この保存処理をしっかりとできますことをお願いしたいと思います。詳しくは博物館で展示もされておりますので、ぜひメディアの皆さんにもお力をいただきたいと思っております。

それから諏訪湖DEウォークが好評でして、諏訪湖一周ウォークを発展的に解消しまして、今年度からは健康増進と、市民の憩いの湖周を生かすという取り組みとして、申し込みの受付を開始いたします。7月4日から8月31日までが申し込み受付期間で、定員が600名です。今までトライアルでやってきましたが、自分のペースに合わせて、また空いた時間を活用しながら目標を設定し、それに対してどれだけできたかを記録します。人気がありますので、早め

のお申し込みをお勧めします。多くの市民の皆様にご参加いただきたいと思います。

その他の情報をお知らせしたいと思いますが、彫刻家細川宗英の記念特別展であります。細川宗英は松本市出身で、東京芸術大学美術学部彫刻科に進学するまで、諏訪で過ごされております。今でも、ご親族は諏訪市に何人もいらっしゃいますが、そうしたご縁もありまして、故郷である諏訪へたびたび帰郷され、この八ヶ岳の麓である自然環境の美しい諏訪周辺で、いくつも作品を制作されました。親族やご遺族の方から、多くの作品を諏訪市美術館へ寄贈をいただいております。2003年に細川宗英常設展示室が開設されておりますが、本年20周年を迎えました。この細川宗英の作品展を7月9日から9月19日まで行います。多くの皆さんに諏訪市にゆかりの芸術家の作品に親しんでいただきたいと思います。

それから昨日より参議院議員通常選挙がスタートしております。諏訪市役所にて毎日夜8時まで期日前投票ができます。また今回も中洲公民館では、7月3日の日曜日、7日の木曜日、9日の土曜日に午後1時から6時まで期日前投票ができますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

それから、マイナンバーカードの申請促進に、市民環境部が取り組んでおります。様々なサービスを用意して取り組んでいますので、ぜひ市民の皆さんにもお知らせをいただきたく、この場でご協力をお願いするものであります。

それから諏訪市受動喫煙防止条例の案が固まりまして、パブリックコメントを受け付けております。7月15日までですので、ぜひ皆さんにも関心を寄せていただきたいと思います。

それから新型コロナウイルス感染症のレベルは1になりまして、社会経済活動と両立させるウィズコロナがスタートしております。皆さんにも積極的に活動にシフトしていただきたいと思います。一方でまだ治療薬等は十分ではありません。現在我々とすれば、可能な方または要望される方のワクチン接種をお勧めしております。4回目のご案内は、すでに65歳以上の方や基礎疾患のある方に送付しております。アレルギー等がありまして、先行しておりましたファイザー、それからモデルナ、これらが打ちづらい方に対しては、ノババックスが提供されるようになりました。ですので、そうした方もぜひご相談をいただきたいと思います。それからワクチンも、現在9月末までということになっております。それまで無料でワクチンが提供されている状況がございます。その後どのようなようになるかは、まだ発表がありませんけれども、ワクチンの効果というのは日を経つにつれて落ちますので、希望される方は、ぜひ4回目のワクチン接種をお願いしたいと思います。

それから、日常生活を取り戻す、街中の元気回復のためという意味で、諏訪おひきたてクーポンを実施しています。取扱店につきましては、チラシをお配りさせていただきました。その後追加されたところもあるというふうになっております。最新情報は諏訪市のホームページで確認ができますので、そちらもお知らせをいただければありがたいと思います。このクーポンの有効期限は9月30日金曜日までです。多くの皆さんのご利用をいただいて、街中も元気になるようお願いをしたいと思います。

私からは以上ですが、諏訪市役所の夏の取り組み等につきましては、総務部長からこの後フォローがございますのでお願いいたします。

(総務部長) ゆう活についてです。もう4年目となりますが、本年もゆう活を実施します。7月から9月までの3ヶ月間を実施期間とします。具体的には、朝方にシフトチェンジしまして、早く出てきて早く帰るということで、夕方の時間を趣味ですとか、家事ですとか、そういうことに充ててもらおうというようなこととさせていただきます。昨年は147人、延べで1,175人の職員が利用し、時間外の縮減や、定時退庁、ワークライフバランスなどの推進に繋がったという声が多くありました。また庁外の職場でも昨年は12人の延べ78名の実施がありました。7

月1日からスタートします。また詳細につきましては、総務課職員係の方に取材をお願いしたいと思います。

先ほど市長から話のありました置き配バッグについては6月29日からこのQRコードのアクセスが可能になるということになります。詳細については担当課の方に、ぜひ取材をお願いします。

あとマイナンバーカードの関係ですが、先ほど市長の話の中にもありましたが、ここでその取り組みに力を入れていく中で、休日ですとか、夜間の窓口の設置ということも、市民課では準備をしているということですので、こちらの方もぜひ取材いただいて、市民の方にアナウンスをしていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

### 記者との質疑応答

○ゼロカーボンシティの取り組みについて

(記者) ゼロカーボンシティ宣言をされて様々な取り組みをしてきていると思うが、取り組みの手応えや課題はあるか。

(市長) ゼロカーボンシティ宣言を皆様に報道もしていただいたので、その報道を見て、提案をいただいたという方も何組かございます。やはり、地球規模で目標達成していかなければならないという危機感を、全世界が共有しているということを肌で実感しております。一自治体としても、市民ひとりひとりに協力いただくこと、行政として取り組まなければならないこと、県や国と連携してやること、いろんな側面からみんなが取り組むことが必要だと思っています。そうした中で、様々な事業者の皆さんからこんなことをやりたいというような提案が、いくつか寄せられております。そうした中、諏訪市として、CO<sub>2</sub>削減あるいはゼロエミッションに向けて、何をどのように取り組んでいくのかということ、ロードマップ的に落とし込んで、そして全庁挙げて、それぞれのセクションが何をやるかということ、固めていかなければいけないという時期であると思っています。そのことにおいて昨日は、詳しい知見、そしていろんなネットワークをお持ちの脱炭素イノベーション協会さんと協定を結ばせていただきました。技術的な開発という意味でも、意欲的な皆さんもいらっしゃいますし、実際にいろんなエネルギーを発電に変える事業を起こしたいという希望をお持ちの皆さん等、様々なジャンルもございますので、そうしたものを総体として、諏訪市として、俯瞰できる形に取りまとめをしたいというのが、今の現在持っている脱炭素に関するイメージです。これは、環境課、あるいは関連する水道局等は情報共有を進めていますけれども、全庁にまで上げていくには、あまり準備が整っておりません。近いうちに、シフトしていけるように準備を進めていきたいと思っています。

(記者) 今現在課題となっていることはどんなことでしょうか。

(市長) 総務課では、この本庁のエネルギーを再生可能エネルギーに替えました。今カーボン取引というようなことを行われております。もうかなり先進的な企業からは、どんなに小さな部品の調達においても、企業としてゼロエミッションを達成している会社からでないと、部品調達いたしませんというような通告が出ているところもあります。そうすると、各企業としても、自社のゼロカーボンを達成するために、総合取引としてカーボンの権利を買い取るということが行われておりますがこれも、なかなか高騰するというようなところがございます。その原資となりますCO<sub>2</sub>の削減の実態が伴わなければならないというふうに思っています。そうすると森林の整備も必要になってきますし、それから、今技術開発と言いましたけれども、水力、高低差を使った水の圧力によってタービンを回す水力発電だとか、あるいは風力発電とか様々な取り組

みが一気に進んできております。開発支援もありますが、実現性があるところからでないといけませんので、幅広く層が厚く、一言で課題をお答えしかねます。ですから、その辺を諏訪市としてのポテンシャルをまず、その潜在能力を把握すること、これが当面の課題です。それを生かして何をするか、それからこの諏訪市内の企業の皆さんや、そうした課題に直面している皆さんを、どのようにサポートするかは、先ほど言ったように農林や経済、それからあらゆるセクションにおいて関連がありますから、それぞれどのように取り組むのかということを確認していく必要があるというふうに考えています。

○災害対策について

(記者) これから災害が多くなっていくシーズンかと思うが、今年新たにに取り組むことがあるか。

(市長) 本日、図上訓練を行います。リアルタイムでGIS等も活用しながら、災害の現地との情報共有を早くしたり、そうした取り組みを逐次進めてきています。対策本部のレイアウトも変えていますが、それは効率性を重視した変更になっておりますけれども、実際の災害の時に市の対応もレベルアップしたものになるように、訓練を重ねて、いざ災害が起きた時に速やかに、効果的に対応ができるように取り組んでいます。

(記者) 昨年8月の大雨災害から1年が経つが、この1年間に防災対策の面で進んだ点と、住民の皆さんに今訴えたいことはあるか。

(市長) 7年ぶりにハザードマップを改めました。被害想定も雨に関しましては、想像しがたいのでありますが、1,000年確率、11年前の東日本大震災は1,000年確率で、10メートルの津波が襲ったということもございました。あれは地震の影響でありましたけれども、豪雨災害につきましても日々、激烈化、またピンポイント化など様子が変わってきておまして、これは県等とも何度もやりとりしながら、皆さんに危機意識を持っていただくということでマップを掲載しております。しかし現実的には、100年に1度くらいの災害想定の中で訓練をするというのが、身近なのかなと思っております。例えば急傾斜地に建っているところは土石流の心配があり、平らな場所だと川が決壊した時は、浸水が心配となります。また鉄筋の家に住んでいる方、木造の家に住んでいる方、一軒一軒状況は違うので、自分の家がどこにどういう状況なのかということをもっと把握していただいて、そして避難警報など出た時に自分がまずどこに逃げるのかを想定したものを作ってくださいということが、ハザードマップに入れてあります。ぜひ皆さんに作っていただいて、雨の時はどこへ避難する、地震の時はどこへどうする、近くに頼れる親戚がいる人、あるいは全くなくて行政の用意する避難所の方へ行った方がいい人、そうしたことを確認することがまず自分の命は自分で守ることになります。そうした人たちをサポートする体制が周囲にあり、そして行政としては避難所開設や情報の発信、それから、道路の通行止め等いろんな対応をしますが、それぞれがやるべきことをきっちりやるということの共有が徐々に図られてきているというふうに思っております。これは地区の区長さんたちにも情報を出して、お願いをしています。区長会議は今年できませんでしたが、通知の中に、お知らせを入れて協力体制を作り上げていきたいと思っております。ぜひ市民の皆さんにも、こうした機会を通じて、それぞれの取り組みを用意していただければと思っています。

(記者) 内水対策ですが、これについてはどのように進んでいるか。

(市長) 一つは、足元の対処療法的なものになりますが、諏訪市内の全域の、何回かの災害の

中で、浸水してしまうくぼみになっているところは、図面上でリストアップしてございます。そこに対しては、雨の量にもよりますけれども、一刻も早く排水ポンプを配備するように、建設課等でも対応しております。また、常設の排水ポンプがどうしても必要であるというような要望を受けているところには、年度予算で対応することにもなっていて、それが当面の対処療法的にやるべきことですが、大きな災害になってきたときはやはり、諏訪湖の水位というのが、内水に大きく関わってきます。これにつきましては、水位を下げるには天竜川に水を流さないとなりません。天竜川の護岸の改修が、それに耐えられるものでなければいけませんので、今430トンがマックスですが、500トン放流が可能な護岸にするべく、着々と工事を進めています。国の最終目標は600トンです。それを伊那谷の自治体とともに、共同要望にしていって段取りを進めております。あと流域治水という考え方ですが、釜口水門を放流するにあたって、伊那谷の治水ダムを、利水の方は水位を下げる影響が大きいのですが、治水だったら事前放流することによって、釜口水門を開けたときに、その流入を止めることができるわけです。時間差を作るってことです。そうした広域的な流域治水対策というような、その取り組みを、国交省や県とともに順次要望等しながら進めておまして、そうしたことも併せて、現場から広域的な対応までやっているところなんです。

#### ○観光事業について

(記者) これから夏に向けて、観光で特に力を入れていくポイントはありますか。

(市長) トライアスロン大会は諏訪地域6市町村を貫くスポーツ大会とすれば初めての試みとなります。750名を超える選手エントリーがありました。ボランティアは1,200名以上を確保できました。そして6市町村や警察など様々な協力をいただき実施されます。本当に記念すべき大会になると思います。令和10年の国民スポーツ大会でも、トライアスロン競技が諏訪湖周で行われることが決定しておりますが、それに向けても追い風になると思います。今、建設途中ですが、令和5年度末には、諏訪湖周の16キロの自転車道が完成するなど、環境整備も整えております。この湖のアクティビティの中に泳ぐことも加わってきましたから、ボートやヨット、カヌーなど、いろんなスポーツをする人たちもこの湖の周辺にやってきていただけると期待しております。観光でいらっしゃる方は、やはり滞在している間に広いエリアを楽しみたいと思います。そういう意味では、八ヶ岳の山麓からこの湖周一帯の諏訪地域というのは、連携して、観光の振興に協力できるものと思っております。諏訪市といたしましては、霧ヶ峰について光を当てていきたいということで、今までちょっと胸にとげが刺さった感じだった廃屋、信濃山荘に続きまして、今年度作太荘が撤去されるというような段取りになってまいりました。それに沿って、霧ヶ峰の魅力の可能性調査をいたしました結果を報告させていただいております。多くの企業の皆さんや事業者の皆さんが、霧ヶ峰の魅力向上に対するアイデア等をお持ちいただいております。そして意欲的な皆さんとともに、霧ヶ峰高原や観光地の質にさらに磨きをかけていきたいという取り組みをしておりますが、これにつきましてはキャップを副市長がやっておりますのでフォローがあったらお願いいたします。

(副市長) この夏の観光の柱というお話ですが、まずは花火大会のThe Legacyを実行委員会が主催し、その前後で観光協会や温泉旅館組合が、それぞれの花火で挟むということ、7月から8月、9月と秋に向けて花火の諏訪湖ということで売っていきなと思っています。ロビーにパネルを置いてある「百花」という映画は、諏訪湖が舞台になっており、9月上旬に封切りになりますのでその映画とタイアップする形で、

また花火を売っていききたいなと思っています。それから霧ヶ峰では、犬の活動をするという財団が立ち上がりました。民間の一般社団法人であります。その法人中心に、9月に大きな犬のイベントが行われます。これが、昨年度、調査研究をした結果を受けての具体的な取り組みの最初の一步になります。霧ヶ峰をどうやってこれから盛り上げていこうか、これまではリフト頼みだったところがありますけれども、このコロナ禍でアウトドアやキャンプにも日が当たり、様々な新しいアクティビティが生まれてきておりますので、その9月のドッグフェスティバルを最初の一步として、霧ヶ峰でももう一度盛り上げていききたいなと思っています。先ほどの作太荘のお話ですけれども、あそこは民間の方が購入をしまして、この夏秋にかけて撤去したいという方向で聞いておりますので、申し添えたいと思います。

○物価高騰に対する市の独自対策について

(記者) 物価高騰に対する市としての何か独自の対策等は考えているか。

(市長) 世界的なロシアのウクライナ侵攻に端を発しました経済の影響であります。国際的に言えばFRBでありますとか、国で言いましたら日銀ですとか、そうしたところの政策等とも絡んだ結果でありますので、一自治体といたしましては、そうした動向を注視しながらも、その対策は国や県も打っておりますので、その辺を情報をしっかり把握しながらやっていききたいと思っております。当面は、生活に大変厳しいご家庭の皆さんの子育て世帯に対しての10万円の給付というのが、ここで議決をされておりますので、早急に対応している最中でありまして、それから給食費につきましても、当面、市で補助をするということを決定しました。市としてできることは限られてはいますが、状況を見ながら、皆さんの支援としてできることをしていきたいと思っております。